

第50回甲賀市水道事業審議会 概要報告

1. 開催日時 令和6年7月9日(火) 午後2時00分から午後3時30分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 会議室301
3. 報告事項 令和5年度甲賀市水道事業会計決算について
第2次甲賀市水道ビジョン実施計画について
第2次甲賀市水道ビジョンの中間見直しについて
4. その他
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 出席者
委員 西谷委員、渡邊委員、岩田委員、岡川委員、吉村委員、
池本委員、鶴飼委員、田中委員、成田委員 以上9名

事務局 上下水道部 西田部長、杉本次長
上水道課 徳田課長、柚木課長補佐、小谷係長、久常係長
上下水道総務課 谷口課長、山本課長補佐、武村係長、和田係長
7. 傍聴者数 0人
8. 会議資料 別紙のとおり
9. 議事の概要

○出席委員数の報告

出席委員は10名中9名で、委員の3分の2以上の出席であることから、甲賀市水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告

○会議内容の公開又は非公開について

会長 本日の会議内容の公開、非公開について、当審議会は市の附属機関にあたるため公開が原則です。

資料には個人情報など非公開にしなければならない内容は含まれていませんので、全て公開とし、議事録での発言者は個人名ではなく、委員として公開させていただきます。

(全員異議なし)

○報告

事務局 ——— 令和5年度甲賀市水道事業会計決算について
(質疑) 投資・財政計画について

会長 資料7ページでは、有収水量などが令和5年1月末の寒波・事業所などでの増加が影響しているとあるが、資料11ページでは、寒波による漏水の影響で減少となっている。有収水量と配水量の違いだと思うが、改めて説明を願う。

事務局 資料7ページは、令和4年度決算で配水量に影響が出ています。
本市は奇数月の20日前後に検針し、その翌月に水道料金の賦課をしますが、1月の検針後に寒波による漏水が発生したことから、配水量は令和4年度決算に、有収水量は3月検針により令和5年度決算に算入されました。よって、令和4年度と比較して配水量は減少、有収水量は増加となりました。
資料11ページは、令和5年度1年間の月別・地域別の配水量となります。令和5年、6年度の1月・2月を比較しますと、漏水がなかった令和6年度は減少しています。

会長 基本的な営業として22億円程度の売り上げがあり、毎年3億から4億円の利益があるが、工事で7億円程度の赤字があり、それを含めると3億円程度毎年取り崩している。
今までの貯金で何年かはカバーできるが、減少してきた時に料金など、その時の状況を見ながら次の手を考えないといけない。10年以内に貯金が無くなるという印象。

事務局 4条予算での工事費の赤字を補うため、補填財源として積み立てから毎年平均6億円ほど出していますが、今までの分に加え、利益分を毎年事業費に積み立てていますので、10年くらいの間で無くなることはないと思われます。
ただ、料金収入の増額は見込めないことや、人口減少等による変動も考えると、今の料金のままでどれだけ持つのかという心配もあります。
収支計画では、令和14年度までは料金の見直しは必要なしとなっていますが、事務局としては令和9年・10年度あたりに料金改定の検討が必要と考えています。

会長 物価が上がっているなど、あと4、5年のうちに1度は状況を考える機会が来ると思う。
負債比率は実は6割ぐらいで、借金をしながらまわしているのが実態。今後、利子が上がる可能性もあるため、毎年数字を確認しながら考えていくために審議会がある。

委員 短期的に見ると健全な会計であると理解したが、改修などで使う年間6、

7億円の工事費は毎年その金額が必要なのか。

新しく設備を入れると、減価償却も含めて長持ちするように想定されるが、いかがか。

事務局

長期的な計画のアセットマネジメントでは、年間11億円程度ずつ工事することで、耐用年数以内に更新工事ができる試算が出ています。これは計画策定時の試算のため、現在は、物価高騰や労務単価の上昇などにより変動もありますが、概ね11億円程度を年間予算として計上し工事を実施しています。

マンパワー不足や繰越による事業遅れもあるため、計画通りに進めるのは厳しいところもありますが、毎年事業を行っている状況です。

会長

甲賀市特有の状況として、例えば人口減少により小規模となった集落に対し、多額の費用をかけて水道管を敷設するのか、他市の例では上水道配管をやめ、タンクを置いて賄うところもある。

水道管の減価償却からすると20～30年のスパンで資金繰りを考えることは大変なので、10年ぐらいで工事の計画を立て、予算取りも計画しながら、地域に支えられての水道事業であるので、あまり変動させるのはよくないかと思う。

ただ、人手不足でもあるので、水道でもAIの導入や漏水調査でロボットを導入するなど、省人化を図りながら事業を行うという話が国から出ている。今後、社会状況の変化による変更もあると思うが、一旦今ある状況と情報の中でベストな計画を立てて、進めながら変化に対応していくことになる。

事務局

—— 第2次甲賀市水道ビジョン実施計画について 説明

会長

工事は入り繰りがあるもので、早めにやることは少ないが、予算や納入の関係で繰り越すことがある。基本的にコロナ禍では、ほとんど工事ができなかったため、玉突きで遅れがでてきているかと思う。

コロナ禍後、物価高騰や半導体不足で計画の後倒しがあり、入り繰りが大きくなってきている。一旦、切りはつけないといけないと思っている。

事務局

水道の場合、管材料の規制が令和3年度にあり、その関係で遅れが出ているものもあります。

その取り戻しが厳しい状況もあり、毎年事業内容の見直しを行っています。

単年度の工事以外に、複数年の予算の債務負担行為で、工期を長く取りながら進めている工事もあります。

契約して実際に進んでいる工事もありますので、債務負担行為という契約手法も取りながら、計画に基づいた発注をしていきたいと考えています。

委員 企業では、長期の工事で年度をまたぐときには、年度で切って支払うことがある。
外部的に出来高が進んでいるように見せるために、支払うことはしてないのか。

事務局 債務負担行為の場合、部分払いの契約をしたものは、完了が認められる部分を支払うものもありますが、基本的には最終の完了時点で支払います。請負事業者とは当初契約の段階で協議しています。

委員 最後一括支払いという方法で、下請事業者は嫌がないか。

事務局 そのような苦情は聞いていません。部分払いで契約をする場合もありますので、工事仕様に合わせて、資金計画をしていただくことになります。
また、資金前渡での前払金等の請求もあります。

会長 資金繰りのこともあるので、払い方については調査していきながら、改善できるものがあれば改善提案をしていただきたい。
水道事業ということで、半分企業のように収益と費用と資産管理を行っているため、裁量が利くので調整していただければと思う。

委員 水道ビジョン実施計画の事業費で、令和5年度と令和6年度の金額が倍以上になっているが、令和6年度は計画通りの金額か、それとも令和5年度にできなかった分がスライドされているのか。

事務局 令和6年度は、令和5年度からの繰り越しですので、年度内に仕上げるのが通常であると思っています。

令和5年度と令和6年度の2か年で債務負担行為が約6.3億円組んでおり、2年間の平均で少しオーバーしますが11億ほどの事業費をめどに事業計画を組んでいます。支払いについては、繰り越し等により額が変動します。

事務局 —— 第2次甲賀市水道ビジョンの中間見直しについて 説明

会長 10年の計画の半分であり、中間見直しの機会が来ている。基本的に大きな変更はないとのことだが、PFASの問題などが出ていないので、盛り込んだほうがいいのかと思う。
オンライン合意形成プラットフォームについて追加説明を願う。

事務局 市民の方々のアイデアを簡単に投稿していただくもので、投稿された意見を、参加したみんなで情報共有できるというものです。
甲賀市を良くする政策を共創する、対話を行っていくシステムです。

- 会長 インターネット経由では、高齢者の意見が取りにくいのではないかと。
- 事務局 人材不足などでA Iや電子化などD Xの取り組みが進む中で、甲賀市として取り組む中のひとつです。インターネットに慣れている、若い方の意見も集まりやすいのではないかとということがあり、今まではパブリックコメントの実施でありましたが、もう少し幅広い徴取方法も実施していくという、今年度からの取り組みとなります。
- 会長 審議会そのものを動画で撮影するなど、動画配信サイトでライブ配信するというのも、自治体によっては行っている。
- 委員 オンライン合意形成プラットフォームで意見を募るとのことだが、周知などをしないと、意見も取れないと思うがどのようにするのか。
- 事務局 甲賀市の第2次水道ビジョンを策定した平成30年度の時は、パブリックコメントのほか、審議会等でも検討いただき計画策定しています。PRや計画の周知については、ホームページに掲載しご覧いただくような形になります。
今後、幅広い方に知ってもらうために、オンライン合意形成プラットフォームなどの手法も取り入れたいと考えています。限界もありますが、ホームページや様々なPR、広報紙などでご確認いただけたらと思います。
- 委員 オンライン合意形成プラットフォームの実施で、どんなことを期待されるか、効果の測り方はどうされているか。
- 事務局 パブリックコメントではご自身の意見を述べるだけでしたが、プラットフォームでは他の方の意見を共有する形になります。今までの一対一の関係から、広く参加者が意見を共有することで、新たな意見が出てくることを期待しています。
- 委員 その場で話ができたり、アイデアの共有ができたり、すごく良いことだと思う反面、落としどころが流れてしまうということが出てくる。先にやり方などをきちっと決めておかないといけない。
- 会長 D Xの実績づくりのためにしているのではなく、実効的な結果を求めて計画を立てて行われているのかという、割と厳しい意見だと思う。
- 事務局 今年度、初めてチャレンジさせていただく事業ですので、ご意見をもとに検討していきたいと思っています。

委員 流行りもので予算がついたとか、補助金が出るということで実施したはいが、結局リソースが無駄になることがあるので、本当に省力化できるのかというところを目指していただきたい。

委員 P F A Sについて、甲賀市としては何か進められているのか。
また、水道管などの耐震適合率の話で、それに伴う水道点検にデジタル技術利用することがあったと思うが、そのデジタル技術などについて何か計画的に行っていることがあれば教えていただきたい。

事務局 P F A Sの件から申し上げます。昨年の11月24日、甲賀市が管理する原水及び水源施設17ヶ所すべてで確認し、いずれも国が示す目標値である50ナノグラムパーリットルを下回る数値でした。この水質検査結果は、ホームページ上で公表しています。

加えて、水道でいうP F A Sについては、P F O SとP F O Aという2種類の量の和が50ナノグラムパーリットル以下という、目標値となっています。

水道法で定める51項目以外に管理目標値という値があり、この数値を下回るように管理すべく、全国の自治体が順次水質を確認しています。

また、直接飲まれる飲料の浄水施設につきましては、年間の点検の中で水質検査をしており、すべて基準を下回る数値でありましたが、公表する目的の検査ではありませんでしたので、今年度以降、必要に応じて数値を公表していきたいと考えております。

2点目の耐震適合率ですが、人工衛星を使った漏水調査と、A Iを活用した漏水診断の2種類があります。

Lバンドを利用し、半径何メートル以内で漏水の兆候があるという目星を付けて、漏水調査に入るものがひとつ。もうひとつは、老朽化修繕履歴や土質の状況など、いろいろな要素をA I学習させ、地域ごとに漏水確率を出して優先的に漏水調査することで、調査時間と経費を削減し、有収率の向上に努めるという方法で、耐震化率も考慮されますので、修繕計画にも反映させていく流れになると認識しています。

委員 デジタル技術は費用がすごくかかると聞く。料金の値上げはまだ先になるとの話だったが、急に金額が上がるのはとても怖いと感じる。

かかる費用等を皆さんに示して、少しずつ料金を上げていく時期かと思う。能登半島地震でも感じたが、水が使えないというのは、本当に命に関わる部分でもある。

できる限り、急激な値上げは避けていただけるとありがたい。

事務局 投資をするための財源について、企業会計は独自の収入によって賄うのが本来の形かと思います。一般会計から事業費の一部を貰いながらの事業展開ではありますが、できるだけ自力で経営できるように予算計上しています。

料金改定などの検討にあたっては、市民の方に影響することですので、会議内容を公開し、状況をホームページや広報等でお知らせをすることが必要

と思います。

下水道使用料でも、2年ほど前に改定の検討をしていただいた会議録をホームページで公開しており、審議結果等についても、広報で周知しています。広く皆さんに知っていただけるよう進めていきたいと思います。

また、デジタル化などは、国の補助金などを活用しながらでないとはできませんので、予算の確保をしていきたいと考えています。

会長

水道が注目されるのは、料金や、地震で断水になったり水道管が破裂したりした時などかと思うが、そのようなことがない限り、日本は安心して飲める水が割と安い値段で供給されている。それはすごく幸せなことだと思う。

次に、PRについて、オンライン合意形成プラットフォームの運用の仕方はあると思うが、意見が集まりやすい手法のひとつとして無記名アンケートがある。割と真実が隠されていて、意外なことが見つかるかもしれない。

P F A Sについては、市民の関心があるところと思うので、関心度に応じた公表の仕方を考えてもらえればと思う。

また、料金値上げのタイミングについては、不可逆性があり、昔安く使っていた方から、時間を戻して請求することはできない。長期的に見て、適切な料金を絶えず考えることが求められる。

特に人口減少は避けられないので、人数の多い我々の世代のところで損をしてあげるくらいの気持ちでないと、将来かなり大変になる感じがする。これらについても、オンライン合意形成プラットフォームで、おそらく多くの意見が来ると思うし、やりとりの場になるのであればいいと思う。

あと、耐震については、Lバンドなどにかかる費用がどの程度か、どれぐらいの精度で漏水を発見できるのかまだわからない状況。メーターの方が確実にわかることもあるので、この会議でこれから議題になってくると思う。

委員

水道料金は自治体で決めていると思うが、周りの状況と甲賀市はいくらぐらいか教えてほしい。

事務局

甲賀市は、基本料金が2,800円ほどになっています。県内の状況からすると、真ん中より少し上ぐらいです。

会長

高くもなく、無茶苦茶安くもなくというところかと思う。しかし、滋賀県全体で見ると、他県の長野県や愛媛県は高い。そういう資料もあれば、我が町が日本全国でどれぐらいなのか分かる。

会長

他に意見・質問もないようですので終了します。